資料３

# 第１章　計画の策定にあたって

**説明文全体を以下のとおり差し替えます。**

**・網掛け部分を加筆修正しました。**

**最終段落に一文を追加し、あわせて一部文言の加筆修正を行いました。**

## １．計画策定の目的

町田市は多摩丘陵の北に位置し、市内北部の丘陵地は鶴見川、境川の源流域にもなっており、都市の近郊でありながら、豊かな自然環境を有しています。また、減少しつつあるものの、今でも農の環境が残っており、数多くの歴史・文化の足跡を見ることができます。こうした立地、緑、農、歴史、文化は町田市の魅力の一つであり、価値ある資産・資源であるといえます。

町田市では、これまで「町田市北部丘陵活性化計画（基本計画・実施計画）」及び「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン（行動計画）」に基づき、地域の団体や NPO などと協働で、北部丘陵に特化した里山環境の「再生と保全」を推進してきました。

こうした中、自然環境への意識の高まりやコロナ禍による生活環境の大きな変化に伴い、豊かな自然環境を求めて多くの人が町田市の里山を訪れ、里山の価値が高まっています。また、近年のゲリラ豪雨や大型台風など自然災害に対して、河川の源流域に位置していることからグリーンインフラ（詳細は P.12 に記載）の推進が重要視されてきています。

さらに、多摩都市モノレールや小田急多摩線の延伸、リニア中央新幹線開業による都市部からのアクセスの向上等、生活環境や社会環境の変化をふまえ、里山の環境を町田市の貴重な資産として活かしていくことが求められています。また、本市におけるＳＤＧｓの達成や持続可能な循環型社会の実現に寄与していくことも重要な視点となっています。

本計画ではこうした地域の資産・資源を有効に活用し、持続可能なものとしていく施策を効果的に推進していきます。そのために、計画全体の将来像を示すとともに、施策の対象となるエリアを設定し、それぞれ異なる地域の特徴をとらえ、実情に応じた施策をリーディングプロジェクトとして設定します。

市内の里山環境を資産として活かし、その価値を更に高めていくために、今までの取組に加えて、市内外の団体や企業など幅広い主体との連携・協働による里山の場（空間）と木材などの活用を推進し、里山における経済、社会、環境の新たな循環の構築を目指していきます。こうした町田ならではの「新しい里山づくり」を推進し、「住む人も　訪れる人も　居心地のよい　まちだの里山」を実現していくための計画として策定しました。

## 第５章　計画の推進にあたって

**説明文全体を以下のとおり差し替えます。**

### １．計画推進の考え方

本計画の推進にあたっては、基本方針に沿って、各エリアの地域住民・団体等とも協議を重ねながら取組を進めるとともに、協議の中で新たに確認された地域課題にも柔軟に対応していくものとします。また、計画を円滑に遂行するために、庁内においても関連各課と連携を強化していきます。

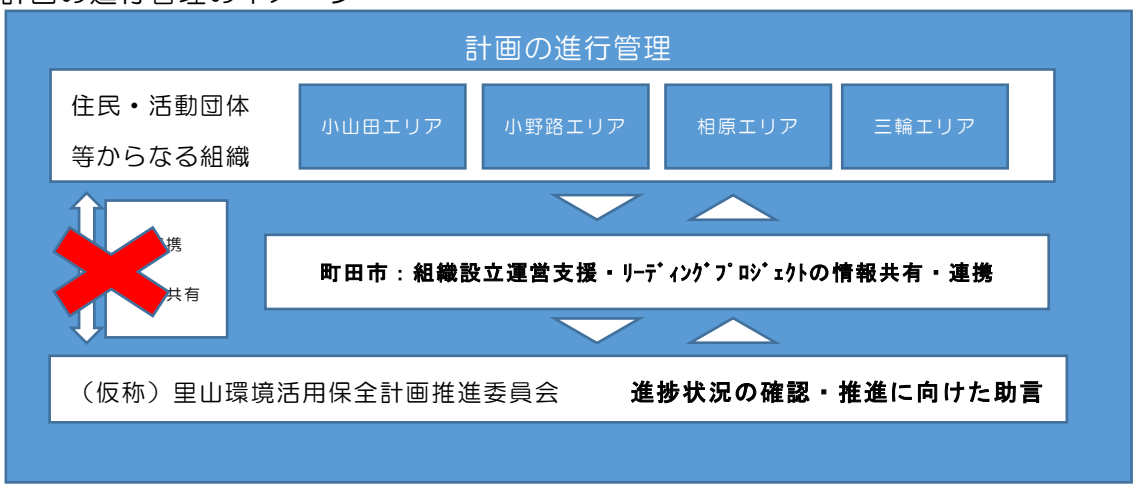
リーディングプロジェクトを中心に、基本方針に沿った様々な取組や活動を促進していくことで、まちだの里山に関心を持つ多様な主体の連携・協働による里山環境の活用を推進し、まちだの里山の将来像「住む人も　訪れる人も　居心地のよい　まちだの里山」の実現を目指します。

### ２．計画の進行管理

町田市は、各エリアにおいて地域住民・団体等からなる組織の設立・運営を支援します。さらに、組織との情報共有や連携を図りながらリーディングプロジェクトを推進していきます。

また、学識経験者と関係団体（農業、観光、産業分野）で構成する「（仮称）里山環境活用保全計画推進委員会」において、毎年、基本方針に沿った重点事業及びリーディングプロジェクト等の進捗状況を確認するとともに、取組の推進に向けた助言等を受けるものとします。

本計画の５年目となる 2026 年度に、社会状況等の変化に応じた計画の中間確認を行い、取組等の見直しを検討します。

**体系図の天地を逆にし、太字部分の修正および一部図を削除します。**

計画の進行管理のイメージ